JapanKnowledge Lib Information

2016年10月3日 公開

図書館情報学用語辞典 第4版
【丸善出版】

図書館情報学について、その基礎的な概念、図書館情報学教育、図書館運営、目録、分類・件名、索引・情報検索、資料・メディアのそれぞれに関する専門用語と、図書館情報学にかかわる人名や団体名など、約1,800項目を収録。図書館情報学研究者、実務者、教育者など、すべての図書館関係者にとっても必携の参考図書です。
日本図書館情報学会辞典編集委員会（編集）

2016年12月 公開予定

小学館 全文全訳古語辞典
【小学館】

収録語数約2万5,000語。従来の全訳古語を超えた画期的な古語辞典。高校教科書に頻出する主要作品・場面の「全文用例」に、古語辞典で初めての品詞分解と現代語訳を付記しています。さらに、現代語から古語が引ける「現古辞典」も搭載。そのほかにも、すぐわかる「助動詞ワンポイント講座」、古語を楽しく解説したコラムや図表など、重要項目の理解を容易にする新工夫を豊富に盛り込んでいます。

2016年12月 公開予定

プログレッシブ ビジネス英語辞典
【小学館】

経済・金融・法律などの専門語から基本的実務用語まで、国際ビジネスに必須の英語を広範に集めた英和辞典です。基本項目のコラム解説、語の活用を示したコロケーション欄、豊富な用例（全文用例1万5,000）、語法注記など、実用的な情報が満載です。企業名や商標名などを中心に年1回のデータ更新を行い、常に最新の情報に対応していく予定です。

■お問い合わせ先 NetAdvance 小学館グループ　株式会社ネットアドバンス　ＪＫ通信編集部
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-30 昭和ビル３F e-mail：b2b@japanknowledge.com

ジャパンナレッジ通信 JapanKnowledge Lib 2016年秋号

図書館びと～東京都立中央図書館

国内公立図書館最大級の資料、そして司書をはじめとする100名を超えるスタッフが働く東京都立中央図書館。調査研究から生活に役立つ情報までサポートする図書館です。強みはなんといっても、そのレファレンス力。都立中央図書館をもっと深く知るために、司書で入職４年目の松田裕希子さん、２年目の小西由華さんのフレッシュコンビにお話をうかがいました。

――まず、貴館についてお聞かせください。

小西：主に調査・研究のための図書館で、一般的な公共図書館とは違い、個人貸出は行なっていません。蔵書数は約198万冊、雑誌約7,000種、新聞約1,000紙、そしてジャパンナレッジをはじめとするデータベース32種類をとりそろえています。利用される方は、コピーをとられたり、必要な個所をメモされたりしていますね。また、東京都の区市町村立図書館への支援として、協力貸出や職員向けの研修も行なっています。

――利用者の特色は？

小西：登録しなくても利用できるため、利用者の属性を詳しく把握していませんが、ご自身でなにか調査・研究されている方が多い印象です。また、近くにいくつか高校もあるので、生徒さんも多く来られますね。平日は21時まで開館しているので、会社帰りのビジネスマンも多いと思います。

松田：目的意識をもって来られる方が多いです。都民でなくても利用できるので、ゴールデンウィークなどは遠方から来られる方もたくさんいらっしゃいます。

小西：入館の際は、それぞれ違う番号が振ってある入館証をお渡しして入っていただきます。入館証は、書庫にある資料を利用したり、オンラインデータベースを利用する際に使います。来館しなくても、郵送による複写サービスなどが利用できます。

――レファレンスサービスが都立中央図書館の最大の特長。一日にどれくらい相談を受けるのですか？

松田：カウンターでは約100件、電話で約60件の問合わせがあります。都立図書館に資料があるかというものから、判例や医療関係などの専門的なものまで多岐にわたります。

小西：協力レファレンスという形で、区市町立図書館からの質問も受け付けています。

――データベースを広めるためにセミナーをされているそうですが……。

小西：月３回くらい、館内で ショートセミナーを開催しています。図書館の使い方から、和歌と俳諧の調べ方、法律情報などテーマを決めて、それにあったデータベースを紹介します。わかりやすいテキストづくりをして、講師をするのも私たちの仕事です。私は昨年、新人だったので、セミナーに参加させてもらい、利用者の方と一緒に勉強していました。

――ショートセミナー以外にもたくさんのイベントが開催されています。

松田：毎年７月頃から月に１回程、定員 10 名の図書館見学ツアーを実施しています。このうち、「バックヤードツアー」ではふだん入れない書庫の中や、資料を収集するところを見て回ります。また「本の修復見学ツアー」は、資料保全室という本を修繕するところがあるので、専門スタッフが実際に本を直すところを見学していただきます。美術情報に特化したものや土曜ツアーもあります。案内係も司書の仕事です。

小西：このほか都民向けの講演会を年に何回か開催します。また、４階の企画展示室では、企画展示も行なっています。例えば、2020 年に開催されるオリンピック・パラリンピックに向けて「世界の国のこともっと知ろう！」というシリーズ展示をしています。2016 年の夏は、ブラジルのリオデジャネイロでオリンピック・パラリンピックが開催されたので、南米の国々をテーマにして実施しました。タイムリーな展示を提供しようと心がけています。

――年間ログイン数 2,764、検索数は 12,000 回以上。ジャパンナレッジもかなりご利用いただいています。公共図書館ではいち早く JKBOOKs『群書類従』を導入していただきました。

小西：ジャパンナレッジを導入したのが 2009 年４月。レファレンスで使うので、利用者の方よりも司書の利用頻度が高いかもしれません。私は『ニッポニカ』をよく使います。紙の資料で調べるよりも圧倒的に早いですし、大助かりです。

松田：いろいろなコンテンツを横断して検索できるので、職員の間ではレファレンスでわからないものがあれば、まずはジャパンナレッジにあたろう、と。『日本国語大辞典』や『国史大辞典』もよく使われていますね。

――都立図書館が開発されたデータベース、「TOKYO アーカイブ」についてもお聞かせください。

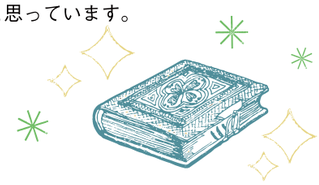
松田：図書館が持っている貴重資料や、江戸・東京に関する資料をデジタル化し、検索・閲覧できるデータベースで、2013 年５月から公開しています。画像を利用したい場合は、同じページ上で簡単に申請することができます。申請される方は、特に出版社やテレビ局の方が多いですね。日本だけでなく、海外からの申請もあります。

――都立中央図書館で働くうえで、お二人の今後の目標は何でしょう？

小西：「都立ってどこにあるの？」「国会図書館と何が違うの？」と、よく耳にするので、私としてはまず認知度を上げたい。区立など地域の図書館で完結せず、その先に都立があることをぜひ知らせたい。また、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックで海外から来られる方も多くなると思います。その時に都立中央図書館にも立ち寄ってみようかなと、多くの方に思ってもらえたら……。

松田：私もとにかく広報を強化していきたいです。一日に 1,000 人前後の利用者の方がいらっしゃいますが、認知度はまだまだ低い。都立中央図書館としてはレファレンス、調べもののお手伝いというのが大きな核としてあります。先輩から受け継ぎ長年培ってきたその強みをしっかりと広報し、いろんな人に都立中央図書館を使ってもらえるよう、アピールしていきたいです。

小西：2020 年が終わったその先も大事だと思っています。先日、高校生対象のイベント「都立図書館へようこそ！」を開催しましたが、参加した生徒さんたちが大学生や社会人になってからも都立中央図書館に来てもらえたら、と。若年層へのアピールも大切だと思っています。



レファレンスを広めるための工夫とは？

都立中央図書館の最大の特長といえば、そのレファレンス力。司書職員が交替でレファレンスを担当しています。「レファレンスのチラシ、私も参加して作りました。『レファレンス』といってもなじみのない方にはわからないので、“ネットだけでは辿り着けない情報へ”とか“図書館司書が、あなたの『知りたい』をサポートします！”というコピーも考えました」（小西）。「気軽に相談カウンターへ足を運んでもらえるよう、閲覧席に質問例を書いたものを貼ってるんですよ」（松田）。

データベースが利用できるパソコンコーナー。

相談カウンターには一日に約 100 件の質問が寄せられる。

東京情報が充実、「都市・東京情報コーナー」。

データベースやレファレンスを広めるためのチラシ。

「東京タワーの幅を知りたい」閲覧席の質問例。

ネットでも江戸・東京が楽しめる！

都立図書館が開発したデータベース「TOKYO アーカイブ」。浮世絵だけでなく、災害記録や書簡、そして番付など、江戸・東京を深く知ることができる貴重資料が満載！「巻物を表示すると広げるように自動で画面が流れる機能があったり、くずし字については読めない人のためにマウスをあてると翻刻文が見られたりします。東京の地図から貴重資料を探すこともできます」（松田）。絵葉書で振り返る「都市・東京の記憶」や、解説文や動画とともに貴重資料を見られる「江戸・東京デジタルミュージアム」といったページも都立図書館ホームページで公開しています。

TOKYO アーカイブ：http://archive.library.metro.tokyo.jp/da/top

「TOKYO アーカイブ」の TOP ページ。

「都市・東京の記憶」で懐かしい東京を発見。

「巻物表示」などの機能も充実。

「江戸・東京デジタルミュージアム」で江戸を学ぶ。

東京都立中央図書館

東京都立図書館は明治 41（1908）年に開館した東京市立日比谷図書館がルーツ。平成 21（2009）年７月に日比谷図書館が千代田区へ移管され、現在は中央図書館、そして雑誌や児童・青少年資料を中心に扱う多摩図書館で構成され、様々なサービスを行なっている。中央図書館は、昭和 48（1973）年開館。蔵書数は国内の公立図書館では最大級の約 198 万冊を所蔵、このうち新しい図書を中心に約 35 万冊が開架されている。来館する方への閲覧サービスや調査研究への支援、都内区市町村立図書館へのレファレンスの支援や資料の貸出しなどが主な業務。

住所：東京都港区南麻布 5-7-13
TEL：03-3442-8451
開館時間：10：00 ～ 21：00
（土日祝休日は～ 17：30）
HP：http://www.library.metro.tokyo.jp/

2017 年、都立多摩図書館が移転オープン！

都立多摩図書館が立川市から国分寺市に移転、延床面積は２倍以上となる。自由に閲覧できる雑誌を 534 誌から 6,000 誌へと大幅増、児童書の最新１年分 4,500 冊を直接閲覧できる選書コーナーの設置など、雑誌サービスと児童青少年資料サービスが、ともにパワーアップして調査研究を支援。また、セミナールームやグループ閲覧室、カフェスペースなど施設も充実。2017 年１月に開館予定。

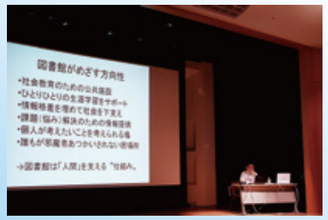
大阪市立中央図書館との共催フォーラムをレポート！

10 月１日に大阪市立中央図書館で、「借りるだけではもったいない！『もっと』使える図書館」（弊社共催）を開催しました。当日は大阪市近隣エリアだけでなく全国から 100 名以上の方々がご参加くださいました。

ビジネスパーソン向けに書かれた著書『図書館「超」活用術』が好調の、著作家でライターの奥野宣之さんによる利用者目線からの講演を皮切りに、大阪市立中央図書館の澤谷晃子さん、京都府立図書館の奥野吉宏さん、『図書館を変える！ ウェブスケールディスカバリー入門』の著者で佛教大学図書館専門員の飯野勝則さん、そして弊社桑原がそれぞれの事例を紹介。最後は「図書館の“いろんな仕掛け”を使うには」というパネルディスカッションで締めくくりました。

３時間あまりの長丁場、しかもデータベースや次世代 OPAC、ディスカバリーサービスといったかなり専門的な内容でしたが、会場のみなさまは熱心に聴いていらっしゃいました。市立、府立、大学という図書館の垣根を超えたフォーラム。それぞれどのように「使える図書館」をめざしているのか、貴重なお話を聴くことができました。

共催した弊社としましても、みなさまからいただいたご意見を今後の参考にさせていただきたく思っております。ご参加いただいたみなさま、誠にありがとうございました。



（上）奥野宣之さんの基調講演。利用者目線から図書館の活用法を語っていただく。（中）左から佛教大学図書館飯野氏、京都府立図書館奥野氏、弊社桑原、大阪市立中央図書館澤谷氏。（下）大阪市立中央図書館のキャラクター、オムリン。